

令和7年度 ぶどう病害虫防除暦

回数	散布時期	IRAC FRAC コード	散 布 薬 剤		収穫前 使用規制	10a 散布量	対象病害虫	代替使用 可能薬剤	注 意 事 項
1	休眠期	M9	水	100 ℓ	休眠期	200ℓ	晩腐病 黒とう病		○ 晩腐病・黒とう病対策として必ず散布する。
			Yーハッテン(展着剤)	20 mℓ					
			㊟ デランフロアブル	500 mℓ					
2	4月下旬 (発芽前)	1   M2	水	95 ℓ	休眠期   休眠期	200ℓ	晩腐病  黒とう病  つる割病  ハダニ サビダニ		○ 防除効果と薬害回避のため、綿毛が見え始め青味が見えた頃散布する。  ○ 昨年「晩腐病」の発生が多かった園では「ベンレート水和剤」200倍(水100ℓに500g)に増量して散布する。  ○ 昨年黒とう病及びサビダニの発生が多かった園では、石灰硫黄合剤10倍(水90ℓに10ℓ)に増量して散布する。  ○ 他果樹に掛かると薬害が出るので注意する。
			Yーハッテン	20 mℓ					
			ベンレート水和剤	200 g					
			石灰硫黄合剤	5 ℓ					
カ イ ガ ラ ム シ 対 策									
5月上旬 (塗布処理)		4	水	40 mℓ	30日				○ 使用方法が特殊(塗布)の為、使用方法が不明な場合は担当技術員に相談下さい。
		アルバリン顆粒水溶剤	40 g						
3	5月中旬 展 葉 3～5枚頃	21+M5   1	水	100 ℓ	60日   21日	200ℓ	べと病 晩腐病 黒とう病 コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ		○ シャインマスカット・クイーンルージュ等その他欧州系品種は黒とう病対策として展葉2～3枚で散布して下さい。  ○ 葉に穴が開く症状(ウスミドリカスミカメ)の被害が観られる園では展葉3枚頃にアルバリン顆粒水溶剤2,000倍液(水100ℓに50g)(30日)を特別散布する。  ○ コウモリガ防除にはガットサイドSの1.5倍液(21日)を地際から50cm以上の位置まで塗布する。
			Yーハッテン	20 mℓ					
			ドーシャスフロアブル	50 mℓ					
			スミチオン水和剤40	100 g					
4	5月下旬 展 葉 7～8枚頃	M3   16	水	100 ℓ	45日   30日	200ℓ	べと病・晩腐病 黒とう病・褐斑病  さび病  カイガラムシ		○ 無核大粒種の新梢伸長抑制、房型改善にフラスター液剤を使用する場合は担当技術員に相談下さい。
			Yーハッテン	20 mℓ					
			ジマンダイセン水和剤	100 g					
			アブロードフロアブル	100 mℓ					
回数	散布時期	IRAC FRAC コード	散 布 薬 剤		収穫前 使用規制	10a 散布量	対象病害虫	代替使用 可能薬剤	注 意 事 項
5	展 葉 9枚頃		種あり巨峰			150ℓ			(種あり巨峰) ○ 実止まりを安定させるため、フラスター液剤を花房・新梢を中心に必ず散布する。
			水	100 ℓ					
			アブローチBI	200 mℓ					
			フラスター液剤	200 mℓ					
	展 葉 10～11枚頃 (満開2週間前)	25	種なしぶどう		200ℓ			(種なしぶどう) ○ 種なし品種は無核率を上げるため必ずアグレプト液剤散布する。  ○ 隣接園等で種ありぶどうがある場合は、飛散しないように十分注意する。	
水	100 ℓ								
			アグレプト液剤	100 mℓ					
この回以降、欧州系品種は各生育ステージに合わせて防除を行う									
6	6月上旬 (開花直前) とび花が咲き始めた頃	M4  13	水	100 ℓ	30日  60日	250ℓ	べと病 灰色かび病 晩腐病 黒とう病 褐斑病 フタテンヒメヨコバイ スリップス		○ 新梢が短く樹勢の弱い樹(園)では、『サンリード2号』を樹勢に合わせ施肥する。  ○ 昨年、灰色かび病の発生が多かった園、及びピオーネではスイッチ顆粒水和剤2,000倍液(水100ℓに50g)(30日)を加用散布する。
		Yーハッテン	20 mℓ						
		オーソサイド水和剤80	125 g						
			㊟ コテツフロアブル	50 mℓ					
7	6月上中旬 (落花直後) 花が8割 落花した時	M3  7  3	水	100 ℓ	45日 前日 前日	300ℓ	べと病 褐斑病 晩腐病 黒とう病  灰色かび病 さび病 うどんこ病 スリップス		○ この回から袋掛けまでは、果粉溶脱及び果実汚染の心配があるので、展着剤は使用しない。
			ジマンダイセン水和剤	100 g					
			㊟ カナメフロアブル	25 mℓ					
			アーデントフロアブル	50 mℓ					

回数	散布時期	IRAC FRAC コード	散 布 薬 剤		収穫前 使用規制	10a 散布量	対象病虫害	代替使用 可能薬剤	注 意 事 項						
8	6月下旬 (落花10日後)	M4  3  4	水	100 ℓ	30日  前日  14日	200ℓ	べと病・黒とう病 晩腐病・褐斑病 灰色かび病 うどんこ病 カイガラムシ		○ 散布時期が遅れると果実汚染・溶脱の原因になるので、散布時期と散布量を厳守すること。						
			オーソサイド水和剤80	125 g											
			オンリーワンフロアブル	50 mℓ											
			トランスフォームフロアブル	50 mℓ											
9	7月上旬 前回散布  10日後	52  40  5	水	100 ℓ	前日  7日  前日	200ℓ	晩腐病 べと病 褐斑病 さび病 黒とう病 スリップス	ミギワ20  フロアブル  ↓ スクレアフロアブル  3000倍 (33mℓ)	○ 袋掛けまでの散布間隔が空いてしまう場合は、担当技術員にご相談下さい。  ○ 今回の防除が済んだらできるだけ速やかに袋掛けを行うこと。						
			ミギワ20フロアブル	50 mℓ											
			レーバスフロアブル	33 mℓ											
			ディアナWDG	10 g											
			冷蔵用ぶどう 特別散布 (袋かけ直前)				3	水  オンリーワンフロアブル		100 ℓ  50 mℓ	前日	200ℓ	うどんこ病 晩腐病 灰色かび病	※ 貯蔵中の灰色かび病対策として必ず散布する。	

9～11回目の防除は棚上散布を十分行う

10	7月中下旬 (袋かけ直後)		水	100 ℓ		300ℓ	べと病		○ カイガラムシ類の発生が心配な場合はモベントフロアブル2,000倍(水100ℓに50mℓ) (7日)を特別散布する。  ○ ダニ類の発生が心配な場合は、コロマイト水和剤2,000倍(水100ℓに50g) (7日)を加用散布する。  ○ クビアカスカシバの多い園では今回散布から次回散布の間に㊟パダンSG水溶剤1,500倍液(水100ℓに66g) (21日)を特別散布する。
		11+27	Yーハッテン	20 mℓ	21日		晩腐病		
			ホライズンドライフロアブル	40 g			黒とう病		
		28	エクシレルSE	40 mℓ	前日		褐斑病 スリップス ケムシ類 ハスモンヨトウ		

回数	散布時期	IRAC FRAC コード	散 布 薬 剤		収穫前 使用規制	10a 散布量	対象病虫害	代替使用 可能薬剤	注 意 事 項
11	8月上旬		水	100 ℓ		300ℓ	べと病		○ 汚染・薬害防止のため、他作物に掛からないよう十分注意する。
			Yーハッテン	20 mℓ			晩腐病		
		M1+M2	園芸ボルドー	200 g			さび病		
		9	コルト顆粒水和剤	33 g	前日		スリップス カイガラムシ類		
特別散布	8月中旬		水	100 ℓ		300ℓ	べと病		
			Yーハッテン	20 mℓ			晩腐病		
		M1+M2	園芸ボルドー	200 g			さび病		
		5	ディアナWDG	10 g	前日		スリップス		
12	8月下旬 (収穫前)		水	100 ℓ		300ℓ	べと病		
			Yーハッテン	20 mℓ			晩腐病		
		M1+M2	園芸ボルドー	200 g			さび病		
		3	アーデントフロアブル	50 mℓ	前日		スリップス		

主 幹 害 虫 対 策	商品名	対象病虫害	使用時期	使用回数	使用方法
	ロビンフッド	クビアカスカシバ カミキリムシ類 コウモリガ	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する

【除草剤の使用について】

使 用 時 期	薬剤名	収穫前使用規制	年間使用回数
生育期用	バスタ液剤	収穫前日まで使用可能	3回
	ザクサ液剤		

◆秋冬期用の除草剤(成分:グリホサート・年間使用回数:3回)については別紙:果樹園除草剤使用区分をご覧ください。

- ◎『農薬取締法、食品衛生法(農薬の残留基準)』を遵守した栽培をしましょう。
- ◎散布薬剤の㊟は『劇物』ですので、お買い求めの際は『印鑑』が必要です。
- ◎安全基準を守って防除を行い、必ず防除日誌を記帳しましょう。販売開始前に防除日誌の提出を頂き、適正防除の確認を行います。
- ◎経営安定のために、果樹共済に加入しましょう。